



狂言「棒縛」シテ 野村万蔵氏



能「巴」シテ 清水寛二氏



能「巴」間狂言 吉住謙氏



明野薪能 その魅力を探る。

桜の名所・明野公民館で、第14回明野薪能が4月7日に開催されました。

今年はいにくの天候により、屋内での公演になってしまいましたが、詰めかけた約1,000人の観客が、幽玄の世界を堪能しました。

平成4年の初回公演以来、市民手づくりの舞台は多くのファンを魅了し続けています。その裏には、薪能実行委員会のみなさんの苦勞、地元子どもたちの努力、そして、プロの演者のみなさんの理解があります。今回は、その知られざる舞台裏を紹介します。

明野薪能

「一年中明野薪能のことばかり考えていますよ」作業の手を休め、日焼けした顔で話してくれたのは、明野薪能実行委員会（会員36人）の古田部光文委員長。今年で14回目を迎えた明野薪能は、日本の伝統芸能を多くの人たちに鑑賞してもらいたいという当初の趣旨を守り、入場料「無料」を続けています。

一回の公演を成功させるためには、数百万円の資金が必要です。実行委員会のみなさんはこの資金を調達するために、明野薪能で培った舞台作りの技術を生かし、能舞台の出張制作を行っています。1998年に行われた長野オリンピックでは3週間舞台を貸し出し、組み立てにも行ってきました。ま

毎年楽しみに待っていてくれる
多くの人たちがいるから



明野薪能実行委員会委員長

こたべ みつり

古田部光文さん



薪能実行委員会のみなさんによって、公演の前日から組み立てられる能舞台。（明野公民館広場）

た、静岡県伊豆の国市や土浦市、日立市などで開催される薪能へも毎年出張し、舞台の貸し出しと制作を行っています。「能の舞台を作らせた俺たち日本一じゃないかな」と古田部委員長が言うように、プロの能楽師からも、明野の舞台は非常に演じやすいと好評です。今年はさらに、「つくば薪おどり」と栃木市で開催される薪能への参加も決まっております、忙しさは増すばかり。

「明野薪能だって料金をとれば、こんなに苦労しなくてもすむんだけど、やっぱり、楽しみに待っていてくれる人たちがたくさんいるからね」日本の伝統文化を次代に残していきたいという思いが活動を支えています。「来年は15周年の記念公演です。もっと能や狂言を身近に感じてもらえるような趣向を考えています。期待しててください」。

明野薪能実行委員会



すずき ひろみ
鈴木 博美さん
（松原）

私は5回目からの参加です。日本の伝統文化を肌で感じてもらいたいという実行委員たちの純粋な気持ちに惚れました。少しでも力になればという気持ちです。



てらうち よしお
寺内 美雄さん
（宮後）

私たちは明野以外にも能舞台を作っています。それを称して「巡業」と言っていますが、今ではそんな活動全部が明野薪能と言えるかもね。



こう た かずあき
古宇田一昭さん
（東石田）

能のことは、まだわからないところもあるけど、最初の公演で、大倉正之助さんの大鼓を聴いたときは感動したね。それがこうして続けてきた原動力かもしれないね。



継承する

日本人の心

「この辺りの者でござる……」明野公演間近の3月27日夜8時、明野公民館の研修室から狂言の台詞が聞こえてきます。声の主は「青少年のための能・狂言普及研究会（深見恭子会長）」の子どもたち。和泉流狂言方・吉住講先生の指導のもと、毎月第2・第4火曜日に稽古を重ねてきました。

会が結成されたのは平成9年、明野新能には第5回の公演から出演しています。その実力は着々と進歩し、平成14年の鳥取県に続き、平成16年の福岡県で開催された国民文化祭や茨城県芸術祭にも参加しています。

「会の活動を通して、子どもたちは大きく成長してきました。大きな舞台も経験してきました。大人以上に能や狂言のことを理解していると思います。また、年齢の違う子どもたちが一つの作品に挑むということで、強い絆が生まれています」と深見会長。また、3年間指導にあたっている吉住先生は「国際化が進むなか、日本人が自国の文化を知らないのは、あまりに悲しいこと。日本人とは何か、自分のルーツを探ることは大切なことです。この会の子どもたちはとても幸せですね」。

将来を担う子どもたちが、日本の伝統芸能に直接触れ、そのなかで自分の進むべき道を探ろうとしています。

青少年のための能・狂言普及研究会



やじま たくみ
谷島 拓己さん
(大村小6年)

狂言がとてもおもしろくなってきました。それは、物語の主人公と同じ気持ちになって演じることができからです。これからも続けていきたいです。



おか の ゆうま
岡野 有真さん
(大村小2年)

今年で2回目の舞台です。能や狂言のことはまだよくわからないけど、みんなと謡いや舞を合わせるのがとても楽しいです。みんなとても優しくしてくれます。



おおはた めぐみ
大畑 恵さん
(鳥羽小5年)

わたしの出演する小舞「七つ子」は短い舞ですが、覚えるのが大変です。でも能や狂言は大好きです。もっともっとお稽古して、上手に舞えるようになりたいな。

明野薪能

最初の趣旨が貫徹している それが明野薪能の誇るべき精神

「明野の舞台に呼んでいただいて今年で14年目になりました。はじめは、ビール箱を逆さに並べたような舞台でしたが、今では、その明野の舞台が全国を飛び回るほどになりました。明野薪能実行委員会みなさんの努力には頭が下がります。そして、薪能がすっかり地元の文化として根付いたことがとてもうれしいですね。」

明野薪能について構想の段階から関わり、まさに生みの親といっても過言ではない、大倉流大鼓奏者・大倉正之助さん。幅広い人脈を生かし、国内一流と言われる演者をボランティア的に集め、能・狂言とは無縁の地での公演を成功へと導いてくれました。

大倉正之助さんは15世宗家故大倉長十郎氏の長男として生まれ、9歳の時小鼓で初舞台に立ち、17歳で大鼓方に転向。大鼓奏者として能舞台で活躍されている大倉さんですが、国内外のアーティストとのライブパフォーマンス活動も有名です。

能楽囃子大倉流大鼓
重要無形文化財総合認定保持者

おおくら しょうのすけ

大倉正之助さん

「筑西市出身のオペラ歌手・中丸三千繪さんとも一緒にさせていただきましたよ」幅広いジャンルを縦横無尽に横断しながら伝統文化の伝承と秘めた可能性を追求しています。

「日本の伝統文化を地元で紹介したい。より多くの人たちに見てもらいたい。そして、満開の桜の下、無料で見てもらおうということ。明野薪能はスタートしましたが、この最初の趣旨が今でもずっと守られているんです。これが明野薪能の誇るべき精神でしょうね」明野の舞台をとっても大切に思い、支え続けてくれる大倉さん。「来年は記念すべき第15回公演です。実行委員長古田部さんとも相談して、お客様の思い出に残る公演にしたいですね」。

